

みんなで使おう！

とっとりの森林づくりゾーニング

(未来につなぐ豊かな森林づくりのためのゾーニング)

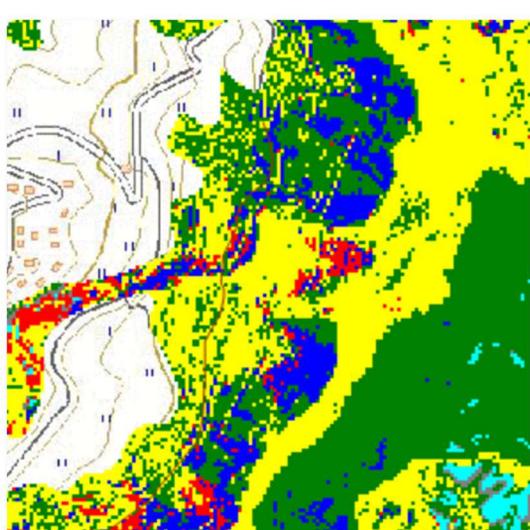
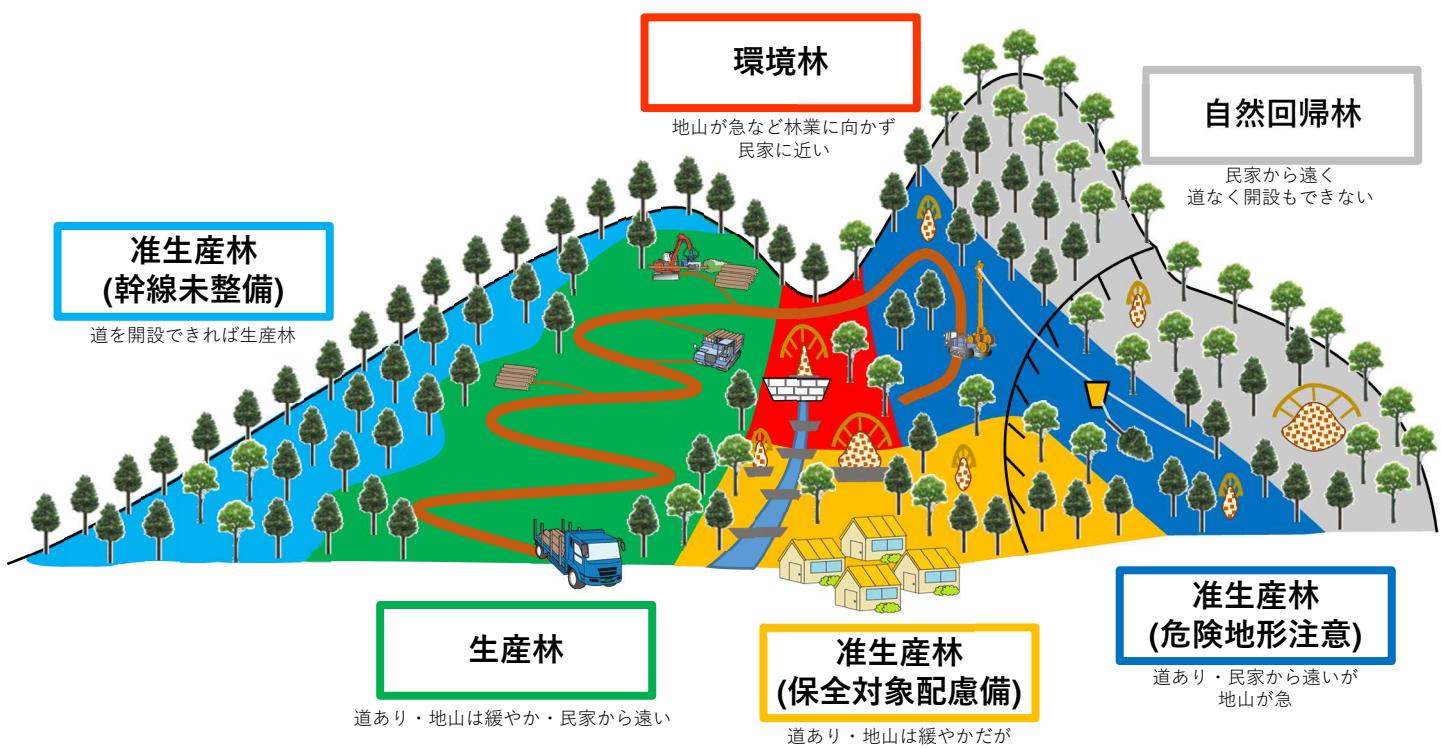
鳥取県では、山地災害リスクの高まりや、森林経営管理制度の改定、皆伐再造林の計画など、森林・林業をとりまく新たな状況・ニーズに対応するため、森林づくりのためのゾーニングを令和5年12月に策定しました

このゾーニングでは、**適地適業**の考え方のもと、「山地災害リスク」と「収益性」を2軸として、**客観的なデータ**と**明確な基準**で林地を評価・区分しています

森林づくりの方向性の確認ツールや、**施業の指針**として、ぜひご活用ください！

※適地適業：森林資源の循環利用と森林による国土保全を両立する森林利用の基本的な考え方で、現地の状況に合わせて施業方法を選択すること

ゾーニングのイメージ ~6つの区分~



山地災害リスクと収益性のデータ・基準により
5mメッシュでマッピング

使いみち

▶中長期的な視点で**森林づくりの方向性**を示すものであり、施業の指針として参考にしていただくものです
たとえば以下のような活用ができます

- ・**事業体**：森林施業の指針
(皆伐適地の探索など)
- ・**市町村**：森林経営管理制度で優先整備すべき森林の抽出
(市町村森林整備カルテ)
- ・**県**：施策検討や市町村・事業体への計画支援の根拠

使うメリット

►その森林について、皆伐が良いか、あるいは長伐期多間伐や複層林施業が良いかなど、**根拠をもって適地適業を進める**ことができます

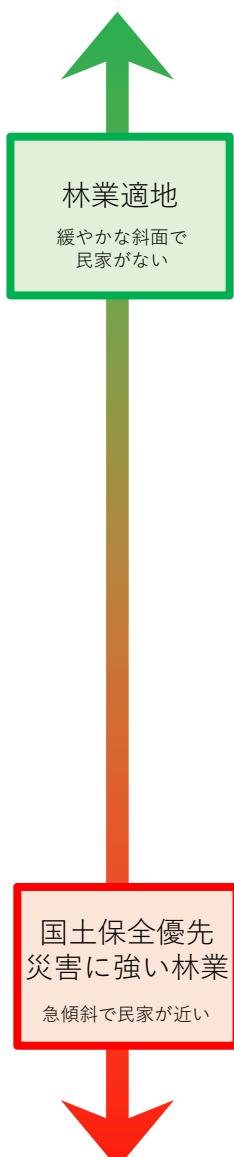
適地適業を通じて、多様で健全な森づくりが進みます

なお、本ゾーニングは規制や補助等と直接的には結びついていませんが、別のゾーニング※の根拠として一部使われ、間接的に結びついています

※間伐等特措法で県が定める「特定植栽促進区域」は生産林の区域をベースとしており、この区域では補助の上乗せ等があります

【区分ごとの概要】

森林区分	イメージ 特徴	望ましい姿 ポイント
■生産林	道あり・地山は緩やか・ 民家から遠い 安定した斜面で効率的に木材生産できる	 森の循環促進 (皆伐再造林) ・エリートツリー、早生樹 ・持続的な木材生産
■准生産林 (幹線未整備)	道を開設できれば生産林 (今は道なし) 幹線が整備されていないが、 整備されれば生産林として活用できる (尾根筋など)	 採算性の改善 ・幹線整備 ・高付加価値の樹種の導入
■准生産林 (危険地形注意)	道あり・民家から遠いが 地山が急 幹線から近いなど生産林の特性を持つが、 急斜面で土砂移動リスクが存在する	 作業道管理と 県土保全 ・長伐期抾伐施業 ・持続的な木材生産
■准生産林 (保全対象配慮)	道あり・地山は緩やかだが 民家に近い 幹線から近いなど収益性には優れるが、 民家に近く、土砂流出に特に注意が必要	 広葉樹の 導入・育成 ・架線や既設作業道等を 活用 ・公益的機能の維持・発揮
■環境林	地山が急など林業に向かず 民家に近い 急斜面など木材生産に不向きだが、 山地災害防止に向けた森林整備は要検討	 気象害防止・巡視 ・公的な森林整備 ・必要最低限の森林整備
■自然回帰林	民家から遠く 道なく開設もできない 奥山の急斜面で、木材生産が困難かつ 民家から遠く人命に関わる災害は 起こりにくい (尾根筋など)	 自然に任せる



ゾーニングの方法

▶林業試験場で開発した山地災害のリスク評価技術や航空レーザ計測で得た詳細な地形データなど活用し、山地災害リスクと収益性の2つの軸で区分しました

具体的な要素

研究結果に基づき、4つのパラメータで高低の線引きをしました

■災害リスク

土砂移動のしやすさ

- ・斜面勾配25°以上
- ・凹凸斜面（0字谷、地滑り側方崖、断層）
- の両方の条件を満たす

保全対象との距離

- ・保全対象（住宅地）から2km以内

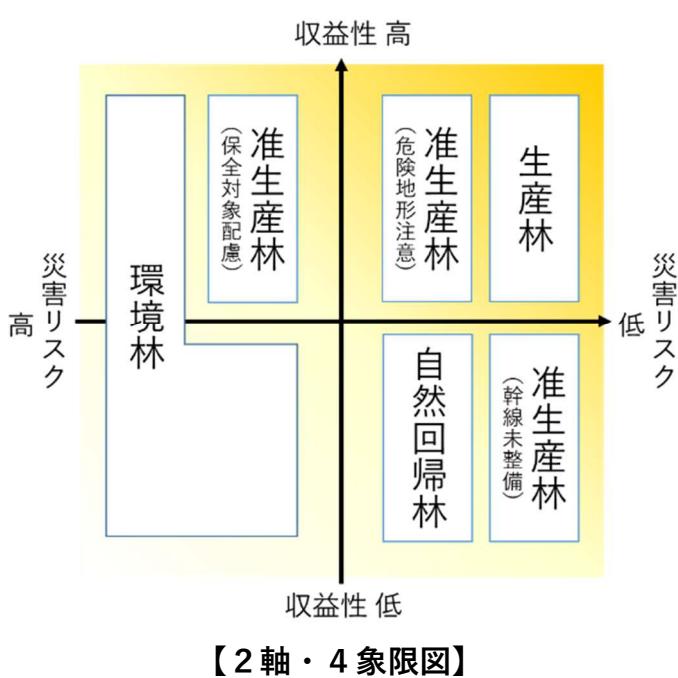
■収益性

林地の生産力

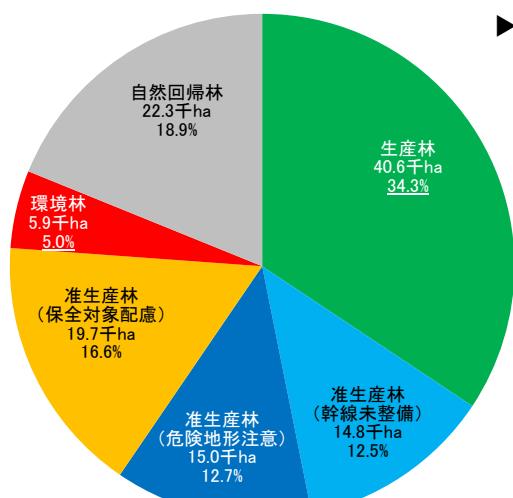
- ・地位級の中央値以上

幹線の有無

- ・幹線（市町村道、林道、林業専用道）から水平距離350m以内
- ・斜面勾配30°以下
- のいずれかの条件を満たす



ゾーニングの結果



▶民有人工林のうち生産林は34%、環境林は5%です

データの手に入れ方

▶鳥取県森林クラウド利用者は、**クラウドレイヤ (ラスター・ベクタ両方)**を利用可能です

また、**PDFを県HPにも掲載**しています

<https://www.pref.tottori.lg.jp/315409.htm>

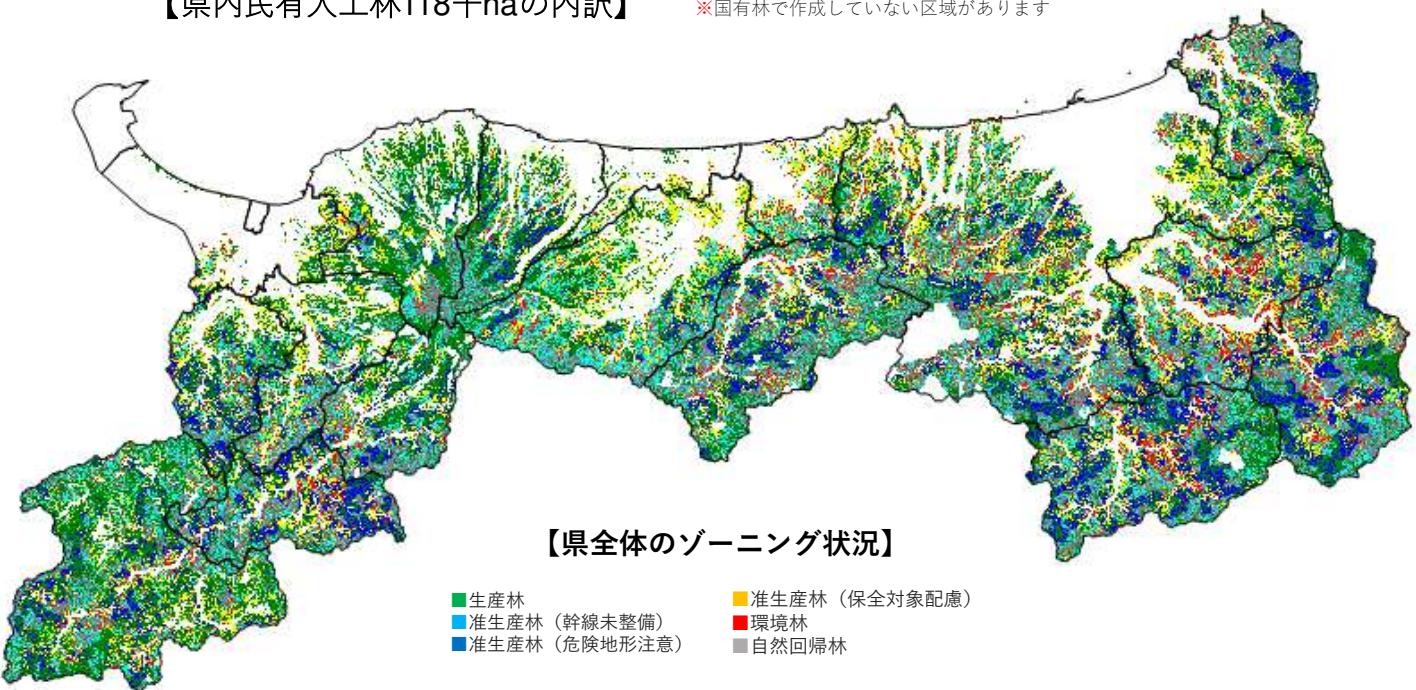


県HP

※面積は鳥取市の未作成地域を含まない等の理由により、林業統計の値と一致しません

※森林の少ない境港市と日吉津村は作成していません

※国有林で作成していない区域があります



具体的な活用例

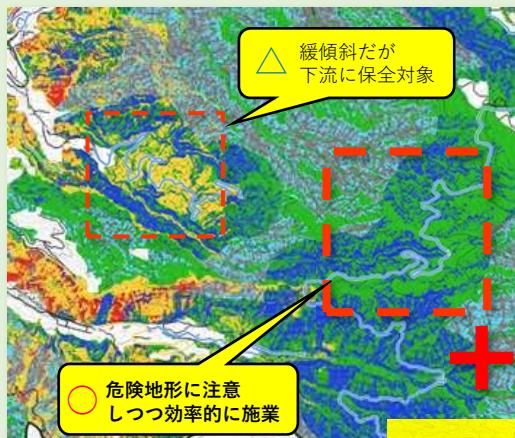
本ゾーニングは、航空レーザ計測データや森林簿・森林計画図など他のデータと組み合わせて、様々なケースに活用できます

活用例1

皆伐再造林適地の探索

① 本ゾーニングを使って適地のおおよその見当をつける！

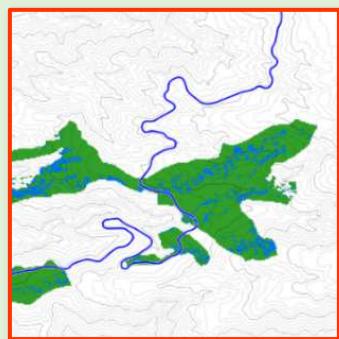
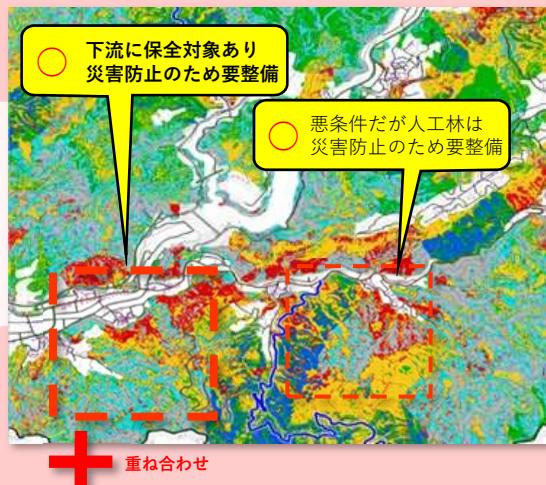
■生産林や■准生産林(危険地形注意)
が広く分布している森林区域を確認



活用例2

森林経営管理制度の市町村事業対象の探索

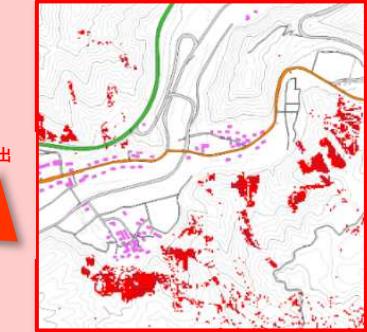
■環境林や■准生産林(保全対象配慮)
が広く分布している森林区域を確認



皆伐再造林の適地！

② 林分情報を重ね合わせて
対象森林を抽出！
(樹種、林齢、材積、森林経営計画など)

QGISや森林クラウド上で
作業します



市町村事業対象森林の適地！

今後の見とおし

►当面は、本データの活用を進めていきますが、実効性の向上や更なる活用に向け、必要に応じてパラメータの調整について検討する可能性はあります
また、中長期的には、幹線整備やレーザ計測の進展に合わせて更新していくものです

さらに詳しく
知りたい人は



鳥取県農林水産部
森林・林業振興局 林政企画課

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目220
電話 : 0857-26-7300

令和7年11月作成版